

余暇活動としてのボランティア学習に対する福祉施設の役割と課題

○外崎 紅馬（日本大学大学院）・佐近 慎平（仙台大学大学院）
金子 勝司（福島大学大学院）

I. 研究の目的

少子高齢社会が進行している現在、人々の社会福祉に対する関心は高まり、それとともに、余暇を利用した生涯学習としての「社会福祉」への学習ニーズも高まってきている。また、社会福祉を学習するうえで、学習の場としての福祉施設の役割が期待され、学習者の社会活動への参加意欲の高さから、学習の成果を活かす場としての福祉施設の役割の重要性も増している。そこで、本研究では社会福祉を生涯学習として学ぶことの重要性に鑑み、まず第1に、学習内容について、第2に、学習の場としての福祉施設活用の意義について、第3に、学習の成果を生かすという意味におけるボランティア活動について、福祉施設と学習者双方に調査を実施し、生涯学習社会における福祉施設の学習援助機能について考察することを目的とする。

II. 調査の概要

調査対象と方法は以下のとおりである。

1. 社会福祉施設

政令指定都市である宮城県仙台市を調査対象地域とし、仙台市内にある社会福祉施設125施設を調査対象施設とした。調査方法は質問紙法による郵送調査とし、調査対象である福祉施設に調査票を配布し、後日郵送により返送してもらい回収した。回収数は109、有効回収率87.2%であった。調査は平成13年6月1日～平成13年6月30日の期間で実施した。

2. 学習者

宮城県仙台市の自治体が平成13年度に実施した学習講座「ボランティア講座」の受講生92名を対象に集合調査を行い、その場で調査票の配布・回収を行った。調査は平成13年6月～12月に実施した。

III. 結果と考察

1. 学習内容

学習講座「ボランティア講座」の学習内容に期待することは何であるかという質問に対し、学習者の回答の高かった項目は、「社会福祉援助技術の理解」(58.7%)、「福祉サービス利用者の理解」(50.0%)、「福祉施設・現場の理解」(45.7%)という順になっている。一方、福祉施設で回答の高かった項目は、「福祉施設・現場の理解」(70.6%)、「倫理観・人権擁護意識の形成」(44.0%)、「専門知識の習得」(42.2%)という順になっており、学習者、福祉施設それぞれの上位の項目で共通しているものは「福祉施設・現場の理解」という項目であり、「福祉施設の社会化」が言われて久しいが、学習者にとっては、まだまだ福祉施設は未知の部分が多く、理解を深める対象になっており、福祉施設の側からも、いまだ十分な理解が得られていないという実感がこの結果に現れたのではないかと考えられ

る。

2. 学習施設としての福祉施設

次に、学習施設としての福祉施設活用の意義は何であるかという質問に対して、学習者の回答の高かった項目は、「利用者との交流体験」(58.7%)、「学習した知識を体験を通して深める」(54.3%)、「福祉意識の向上を図る」(50.0%)という順になっている。一方、福祉施設で回答の高かった項目は、「福祉意識の向上を図る」(64.2%)、「学習した知識を体験を通して深める」(62.4%)、「施設機能の理解」(60.6%)という順になっており、学習者、福祉施設それぞれの上位の項目で共通しているものは「学習した知識を体験を通して深める」という項目と「福祉意識の向上を図る」であり、生涯学習施設としての福祉施設の意義として、施設職員の意見や現場認識の提供、またそれとの直接的な関わりが、学習者、福祉施設双方ともに、いわば「体験による学習知識の定着と理解の深化」及び「体験から得られる意識啓発」というような点に反映されているといえる。

3. 学習成果を生かすボランティア活動

社会福祉を生涯学習として学んだ者が、その学習の成果を生かす場を福祉施設に求め、余暇活動、ボランティア活動を行う場合、主体的な意思に基づくボランティア活動は学習者の意識を高め、同時に精神的な充足感を得ることが期待でき、また、日常生活ではなかなか接する機会の持たない福祉施設利用者との交流を通じて、他者の理解や新たな自己啓発、自己実現という効果も期待できる。さらに、生涯学習として知識や技能を学んだ社会福祉を、ボランティア活動という具体的な実践の場で生かすことによって、体験と知識の融合を図りながら、自らの社会福祉に関する理解を一層深めることも可能となる。

そこで、学習者については、希望するボランティア活動は何であるかという質問を行い、福祉施設については、ニーズのあるボランティア活動は何であるかという質問を行った。その結果、学習者は「介助関係」の占める割合が相対的に高く、それに対し、福祉施設の求めるボランティアは「指導関係」の割合が高いという結果になっている。また、細かい項目についてみると、「話し相手・遊び相手」「散歩・外出援助」「各種行事の手伝い」が学習者、福祉施設双方とも上位の項目となっており、直接的な交流を土台にしながら、学習者はより「介助」的な関わりを期待し、福祉施設側は指導も含めた「余暇支援」的な関わりを望んでいるといえる。

Ⅲ. おわりに

社会福祉の目指す目標は、福祉サービスを利用する人や地域住民が主体的に自らの生活を形成していくことに対する支援であり、特に、福祉施設における援助は、単に、衣食住を確保し施設利用者の心身の自立を促進するだけではなく、生活の質の向上を図るため、社会的、文化的な支援が求められる。学習者はそのような目的を十分認識する必要があり、福祉施設はその目的や、施設機能に則して「生活の質の向上」がどのように実践現場で具体化されているのかを、学習者に理解させることが求められるといえ、生涯学習施設としての福祉施設における学習援助の適切さを改めて検討していくことも今後の課題であるといえる。